

- ①「梅林特別顧問インタビュー」(東京新聞、17年12月23日)
- ②「日本の核の傘依存」  
梅林特別顧問のコメント掲載(朝日新聞、17年12月25日)
- ③「梅林特別顧問が核のない未来受賞」(長崎新聞、18年1月20日)
- ④「米国NPR」  
梅林特別顧問のコメント掲載(東京新聞、18年2月11日)
- ⑤「安保法施行から2年」  
梅林特別顧問のコメント掲載(東京新聞、18年3月29日)
- ⑥「北朝鮮が核実験中止と核実験場廃棄」  
梅林特別顧問のコメント掲載(長崎新聞、18年4月22日)
- ⑦「その土砂ストップ! 沖縄集会」 湯浅共同代表の発言掲載(琉球新報、18年5月28日)
- ⑧「辺野古新基地外来生物対策」 湯浅共同代表の要請掲載(琉球新報、18年5月30日)



①



②



③



④



⑥



⑤



⑧



⑦



Peace Depot (Peace Resources Cooperative)  
 発行人: 湯浅一郎 / 住所: 〒223-0062 横浜市港北区日吉本町 1-30-27-4 日吉グリーンビル1F  
 TEL: 045-563-5101 / FAX: 045-563-9907 / E-mail: office@peacedepot.org  
 郵便振替: 00250-1-41182 特定非営利活動法人ピースデポ  
 銀行口座: 横浜銀行日吉支店 普通 1561710 特定非営利活動法人ピースデポ

共同代表就任のご挨拶

## 「市民の手による平和のためのシンクタンク」 たくさんの人に ピースデポに参加してもらいたい

山中 悦子 (ピースデポ共同代表)



皆さま、こんにちは。2月の総会後に開催されました理事会で今期共同代表を務めることになりました山中悦子でございます。よろしくお願いいたします。

調査・研究・政策提言に取り組むシンクタンク・ピースデポの代表はこれまで当然のことながらこの道の専門家が担って来ました。服部学さん、梅林宏道さん、湯浅一郎さん、田巻一彦さんらはどの方も言うまでもなく重責を担うのにふさわしい実力の持ち主でいらっしやいました。ここにこのたび湯浅一郎さんとともに共同代表の一人に加えていただくことになりました。このことは私をよく知る人たちを驚かせたことだろうと思いますが、実は一番戸惑っているのが私自身です。なぜなら私は、これまで代表をつとめてこられた方々とは違い、この分野での実力、実績がないからです。これまでの私の活動の中心は、1980年代は消費生活協同組合、1990年以降は今日に至るまで30年近くインド、インドネシア、フィリピンの開発支援に取り組む国際協力NGOでした。この間非核・平和、脱原発、人権、多文化共生などの分野で、思いを共にする地域の人たちと行動を共にしてきました。2000年以降は、神奈川県内のNGOを代表して「NGOかながわ国際協力会議」「かながわ国際協力基金」「かながわ国際政策推進懇話会」など県の国際課や国際交流財団が事務局を担当する会議で委員を務めてきました。加えて2007~2015年は神奈川県立保健福祉大学で非常勤講師として外国籍県民との共生を考える「多文化理解」を担当してきました。

梅林さん、田巻さんとは1985年ごろ出会ったと記憶しています。自宅が近かったことから「トマホークの配備を許すな! 全国運動」の事務所に通うようになり、この運動を引き継いだ「脱軍備ネットワーク・キャッチピース」では湯浅さん、田巻さんとともに全国運営委員をつとめました。こうした経緯もあってピースデポ発足後は2006~2016年に監事を、2016年からは理事をつとめ現在に至ります。気力・実力を兼ね備えた新リーダーを迎えるまでの間、リリース役としてがんばります。ご支援・ご協力いただけましたら幸いです。

### リーダーの意思か、市民の力か

現在、日本に問われているのはリーダーの意思か、市民の力か? 私たちは今この問いの答えを確認しつつあるのではないのでしょうか? 昨秋以来、日本国内では北朝鮮からのミサイル攻撃に備えよとの脅しもとれる政府の動きかけが活発化。全国の自治体レベルで子どもたちをも巻き込んでアラートを鳴り響かせた避難訓練が実施されました。私も小4の孫娘から「ミサイル、ほんとに飛んでくるの?」と真顔で聞われました。私たちはいつの間に孫たちの世代にこんな心配をさせる状況を作ってしまったのでしょうか。時代遅れのリーダーには平和と共生、核のない世界をめざす意思が見られず、国民は国民で国内外のたくさんの矛盾・課題に関心を示すことなく、自己満足を優先し

**6月  
発行予定**

ピースデポ「20年のあゆみ」

**価格300円(+送料)**

ピースデポ「20年のあゆみ」を製作しています。2月の総会では暫定版を配布しました。1990年の「平和資料協同組合」準備委員会にはじまり、1997年から2017年までを完全カバーしています。周りの方々にもお広めください！

**お知り合いの方へのピースデポの紹介にご活用ください。**

編著：「20年のあゆみ」冊子編集委員会  
発行：NPO法人ピースデポ A4判、36ページ

年ごとの年表とハイライト  要約年表  主な取組み  
 受賞  出版物リスト  歴代役員  協力者 など

## 総会に出席した会員からの意見

●今回の議案は良く書けているが、何か足りない。それは今までの活動の重点は世論を作り出すこと、世論に働きかけ啓蒙活動をして、国民が政府に働きかけるという活動が中心だったと思う。それに対して、もっと直接的な行動ができないかと考える。ピースデポはNGOであり、20年の活動の歴史が豊富にある。それを利用し、NGOのネットワークの中心になるような活動をできないかと思う。北東アジア非核兵器地帯が中心になると思う。憲法9条の戦争の廃絶、核兵器の禁止条約、地域の安全保障、これらを結びつける。それを東アジアの中で作っていく際、ピースデポには核になってほしい。議案の事業分野2「促進する活

動」ではなく「構築する活動」など、主体的な表現にすべきではないか？北東アジア非核地帯設立に向け行動計画にまで踏み込んでほしい。  
●会費の安い準会員といった枠を新設し、そこを増やすという手もある。現在の会員数では少なすぎる。何千人という規模にすべきではないか。すると、何かに参画することが可能になると考える。資金的に余裕のある財団や企業にも話をして協力をお願いしたらどうか。ピースデポが拡大していくためにも良いのではないかと思う。また、ソフトバンクも原発反対で熱心に取り組んでいる。資金集めのやり直しをしていったらどうか。

現在、安全保障は必ずしも国民の安全が目的になっていない。今の日本は、本当に国民のための社会なのか。日本が朝鮮半島にしてきたことを伝える運動もあわせてやるべきではないか。安全保障や軍事は人を守るためのものであり、本来は軍勢力ではなく対話で解決できると考える。  
●会員の拡大は長年の課題。ピースデポはICANには所属はしていないので、組織への参加や協力もできればいい。国内でも意識を持っている団体はたくさんあるため、そのような組織との共働という活動にも発展していくべき。

### ピースデポ第19回総会記念講演会 戦争をするな！—米軍基地と朝鮮半島

2月11日、ピースデポ第19回総会記念講演会「戦争をするな！—米軍基地と朝鮮半島」を明治学院大学白金キャンパスで開催しました。  
原子力空母の横須賀母港問題を考える会の呉東正彦さんに「第7艦隊と横須賀市民」、参議院議員の伊波洋一さんに「米軍基地と県民の安全」をテーマにご講演いただき、参加者との質問を交えながら、議論を深めました。



事務所日誌
●17年12月24日 第77回理事会。
●1月18日 監事による2017年度会計監査。
●2月11日 第19回ピースデポ総会(第78回理事会含む)。総会記念イベント「戦争をするな！—米軍基地と朝鮮半島」。
●4月3日 発送ボランティアさんたちと事務所でお花見会。
●4月10日 第11回PNND日本総会。
●4月16日 外務省へ「朝鮮半島の平和と非核化に関わる要請」とその後、衆議院第1議員会館で記者会見。
●4月23日～5月3日 NPT第2回準備委員会に山口参加。
●5月30日～6月2日 梅林・共同議長としてモスクワでの北東アジアの平和と安全保障に関するパネル第3回会合出席。

編集後記
NPTジュネーブ派遣のために19万円あまりが派遣カンパで集まっています。ありがとうございました。みなさまのお気持ちを生かせるよう、8日間にわたって会議とできる限り多くのサイドイベントに参加してきました。国際NGOネットワーク・アポリション2000の年総会に出席して、みなが口々に述べていたのはほかのグループと連帯すること、核兵器廃絶を社会運動として盛り上げていくことの難しさでした。モニター 543-4号に書きましたように中東非大量破壊兵器地帯を核とした政府とNGOを巻き込んだ動きが見られます。よいところは大いにマネをして取り入れていきたいです。(大)

### 総会で決まった今年の主な事業計画

- **基本方針**
  1. 核兵器禁止条約の発効を通じて、「核のない世界」へ向かうスタートを
  2. トランプ米政権の核軍拡路線に対抗する
  3. 日本のビジョンと行動を問う
  4. 北東アジア非核兵器地帯構想を前進させる
  5. 憲法平和主義を放棄、危険な道を進む日本を阻む
  6. ピースデポの組織・運営面での課題の解決
- **事業プログラム**
  1. 核兵器廃絶・不拡散への日本の市民社会からの寄与
  2. 「北東アジア非核兵器地帯」を促進する活動
  3. 米軍、自衛隊の動向調査
  4. 軍事費、武器輸出に関する調査活動
  5. 出版活動及びアウトリーチ活動
- **組織体制の整備**
  1. 代表の交代
  2. ピースデポ「7本の柱」・次世代基金(梅林・湯浅基金)の設立
  3. 助言者の再組織化と運営会議
  4. 「ピースデポ協力研究員」
  5. 会員、モニター購読者の拡大
  6. 他機関との研究調査協力と平和活動のコーディネーション
  7. 助成金・調査委託及び寄付金の開拓

役員人事
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>理事(10名)</b> 池田佳代、佐藤治、澤田正、茂垣達也、芝野由和、高原孝生、竹峰誠一郎、牧嶋とよ子、山中悦子、湯浅一郎</li> <li>■ <b>監事(2名)</b> 呉東正彦、高木規行</li> </ul>
<p>&lt;改選直後に行われた理事会で選任&gt; 共同代表:山中悦子、湯浅一郎 副代表:池田佳代、高原孝生 &lt;特別顧問&gt; 梅林宏道</p>

での現状を認。これが我が国の現状です。こうしたなか隣国韓国には国の将来像をはっきり国民に示し、朝鮮半島の非核化・平和の実現に本気で取り組む大統領が出現しました。簡単ではない道のりも歩き出さなければ目的地に着くことはできません。市民の力が国のリーダーを決め、リーダーの意思、本気度が問題を解決する実例となることを心から期待します。

ピースデポは「平和資料協同組合」です。多くの人の参加・出資で誰もが平和の配当を手に行けるよう努力しています。2030年に向けた国際社会の目標「SDGs(持続可能な開発目標)」の目標16は「平和と公正をすべての人に」です。ピースデポはその知見を生かして国際社会を変える力となることをめざしたいと思います。

### ピースデポ 第19回総会報告

2018年2月11日(日)明治学院大学白金キャンパス本館10F大会議場において第19回総会を開催しました。

議長は正会員の永島順子さんが務められました。総会で採決された昨年度の事業報告と決算(所轄庁である横浜市に提出し、情報公開の対象となります)、今年度の事業計画と予算はピースデポウェブサイト<http://www.peacedepot.org/whatspd/actvty/>に掲載されています。

体調不良による田巻代表の退任に伴い、山中、湯浅が共同代表となり、新たな体制でスタートしました。シニア世代を含む幅広い方々の協力を得つつ、次の時代を担う新世代の活動家・研究者の育成を目指しますので、皆様のご協力をお願いします。

## 欠席会員からの総会へのメッセージ

総会に向けて、今年も多くの会員の皆様から、激励・ご提案をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。メッセージの一部をご紹介します。

- 正会員を増やして財政を安定させてほしい。そのために何かアクションを見えるようにしてほしい。
- 「核兵器を必要とする安全保障とは？」「核に抑止力は本当にあるのか？」の2点に絞った議論を展開するの必要を感じます。
- いつも貴重な情報ありがとうございます。梅林さんのエッセー「全体を生きる」にはいつも感動しています。
- 皆様の活動を支持いたします。
- ピースデポの役割はいいよ重要になってきていると思います。退職して活動の幅を限っておりますが、支持の気持ちには変わりはありません。
- 安倍政権による憲法平和主義の破壊に抗すべく、私も地道に活動をしていくつもりです。
- ICANがノーベル平和賞を受賞して、とても嬉しかったです。その理念を現実のものとするためにピースデポさんに期

- 待しています。
- 米国の「核態勢見直し」に何の躊躇もなく賛意を表する被爆国に唾然としています。こんな政権、外相しか持てない日本は非核を目指すなんてこと標榜していいのかなと思います。非核運動は民衆の運動だとつくづく思います。
- 一人一人の地球市民が自分の頭で考えて行動できるように今年も全力で頑張ります。
- いつも励まされています。第19回総会の成功を祈念します。
- 原則的な議論が目先の有効性を持っていない状況が続いていますが、それでも原則的な議論をすべきだと思い、活動に敬意を表しています。
- このたび新著「漂流するトモダチ アメリカの被ばく裁判」(朝日新聞出版)を出版しました。ピースデポの作成された原子力空母ロナルド・レーガンの航跡図

- などを盛り込んでおります。是非、ご一読ください。
- 皆様のご活動に敬意を表します。平和な世界の構築をめざして頑張ってください。
- 内容をすべて読了しましたが、これまで以上に充実した議案書になっていると思います。新しい情勢の時代に入っ、ピースデポの役割は益々増していると思っています。時々、資料を活用しています。貴会の発展を祈念しております。
- 核兵器禁止条約の会議にも参加せず、反対を表明し、1994年以来、核兵器の究極的廃絶の決議を出しながら禁止条約には反対する、現日本政府の矛盾に満ちた態度、国の安全保障に国民の安全保障を顧みることなく、現政府の安泰を考えることに終始している。「核兵器・核実験モニター」で追及してほしい。